

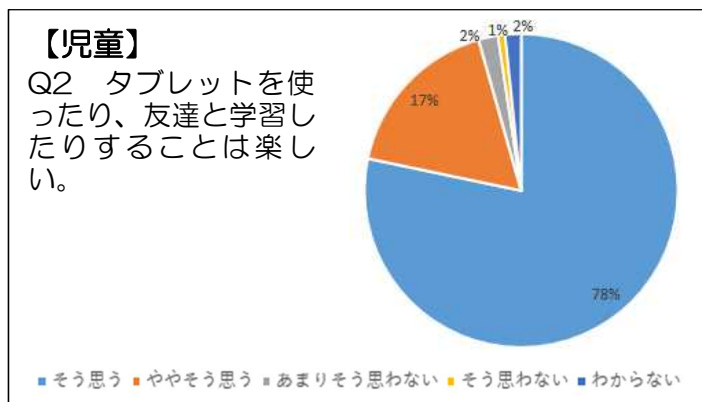
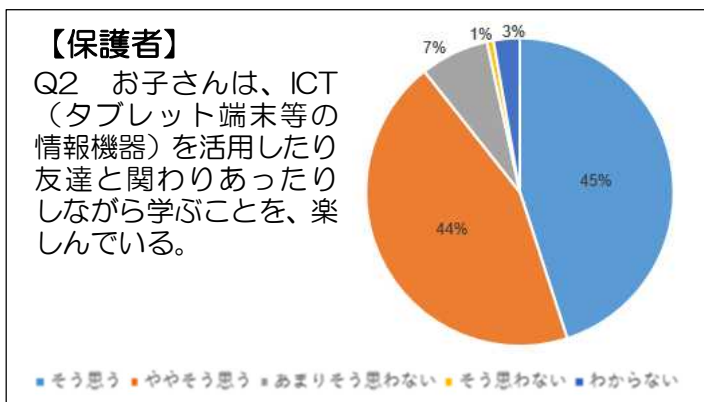
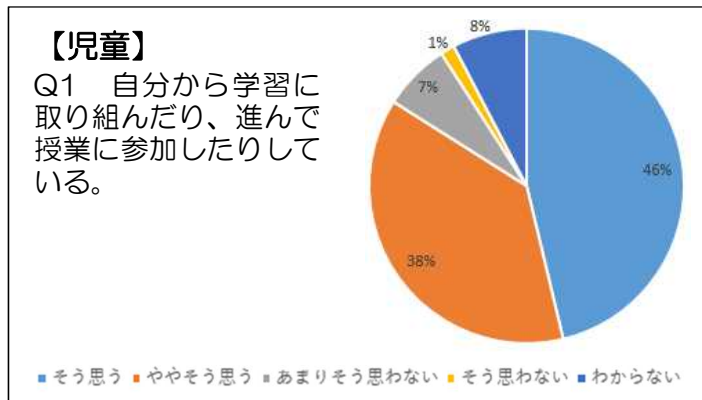
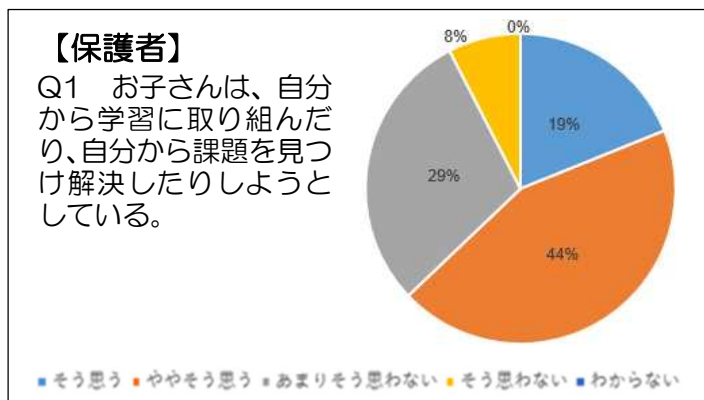
# 令和5年度 学校評価アンケート結果報告

保護者の皆様には日頃より本校の教育活動にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。また、12月にはご多用の中「学校評価アンケート」にご協力いただきありがとうございました。データがまとまりましたので、結果と考察についてご報告させていただきます。※全校回答数 291 件(回答率 47%)

## 1 アンケートの内容と集計結果

### 分類1「生きてはたらく知」

主体的に学習に取り組み、自分から課題を発見し解決しようとしたり、進んで友達と学び合ったりしようとする子どもを育てています。



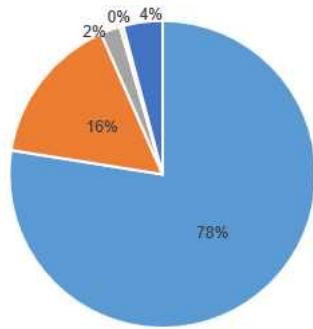
Q1 では、学校側が課題と捉えている本校の子どもの「主体性」について伺いました。「そう思う」「ややそう思う」を合わせた割合が63%で、全12問の中で Q11 と同じくらい評価が低く、学校側と同じように課題とされている保護者の方が多岐に分かれました。さらに、Q1 に関しては昨年度71%から大きく評価が下がっています。ただ、昨年度に引き続き子ども自身の評価はあまり低くありません。Q2 にあるように、ICT を活用しての学習や友達と関わり合う学習を楽しんでいることに関しては保護者の方からも高く評価していただき、子どもの自己評価も高いので、学習の楽しさを感じている子は多いようです。白根小の重点取組分野である「生きてはたらく知」では、自ら課題を発見し解決しようとする力を育てることを目標としています。そのため、今年度、重点研究では、算数科を中心に「子どもが考えたい授業づくり」について考え、分からないことにも主体的に問題解決しようとする子を育てられるよう研究してきました。授業での子どもたちの様子を見てみると、その成果も少しずつ出ていていると感じています。今後も、学習の楽しさをさらに一歩進めて、自分から課題を見つけ、その課題解決にむけて主体的に取り組んでいけるよう、支援していきます。

## 分類2「豊かな心」

よりよい人間関係を築いていこうとすると共に、自分のよさを発揮し、自他の違いを認め合える子どもを育てています。

### 【保護者】

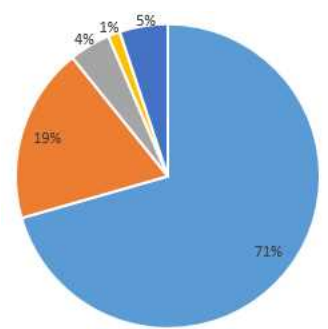
Q3 異学年での活動はお子さんの成長につながっている。



■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

### 【児童】

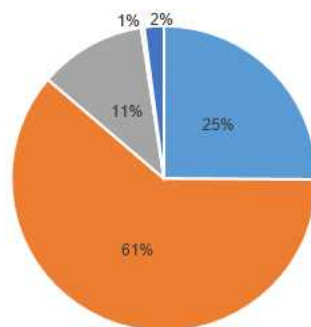
Q3 他の学年の人と遊んだり、一緒に活動したりすることは楽しい。



■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

### 【保護者】

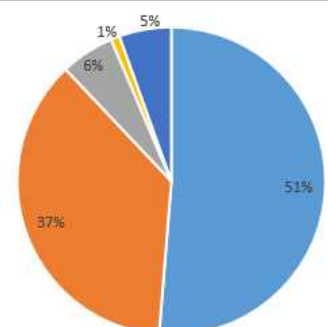
Q4 お子さんは、自分の考えを伝えたり相手の考えを認めたりしようとしている。



■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

### 【児童】

Q4 自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えをしっかりと聞いたりすることができる。



■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

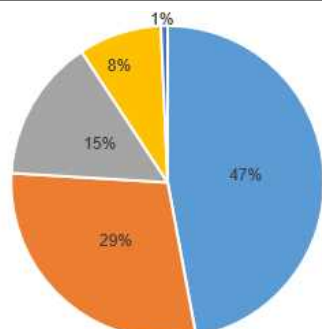
Q3、Q4 の設問ともに、昨年度と大きな変化はありませんでした。例年、保護者の方からも高い評価をいただいている異学年との活動は、白根小の重点取組分野「豊かな心」の育成に欠かすことができない活動であると考えています。全校遠足や運動会での活動だけでなく、年間を通してペア学年での活動を計画し、上学年を目標としたり、下学年に対して自分が役に立っていると実感できたりするような指導を心がけています。また、子どもが自分のよさを発揮し、自他の違いを認め合えるよう、自分の考えをしっかりと伝えたり、友達の考えを寛容に受け止めたりできるように教育活動全体を通して指導しています。今後も、子どもたちの「豊かな心」の育成に努めていきます。

## 分類3「健やかな体」

正しい食生活を送る習慣を身につけると共に、一校一実践運動を継続的に取り組みながら体力向上を目指しています。

### 【保護者】

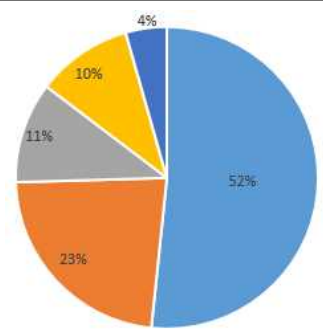
Q5 お子さんは、進んで運動をしたり外遊びをしたりして体を動かしている。



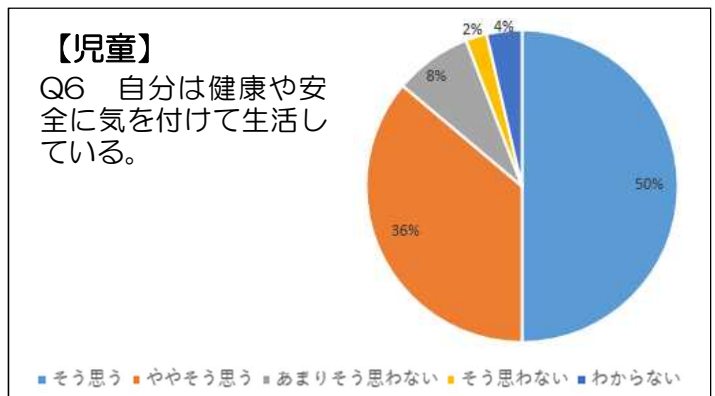
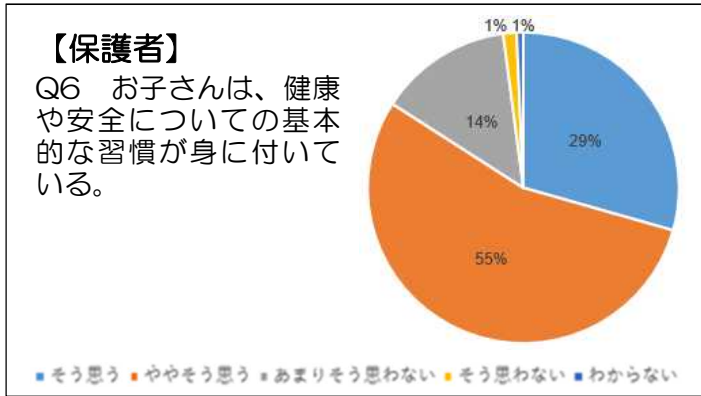
■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

### 【児童】

Q5 自分はよく運動をするほうだ。



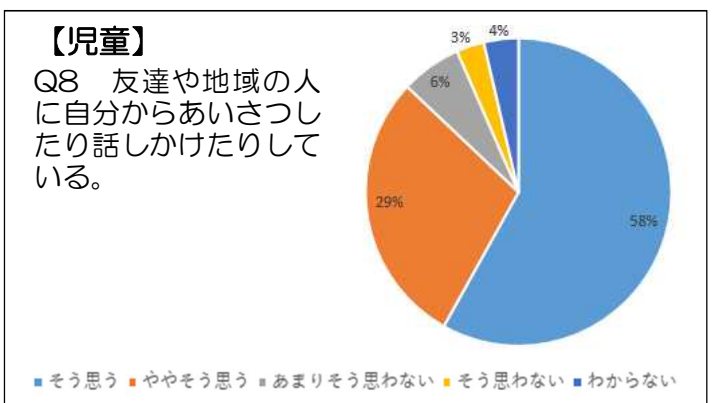
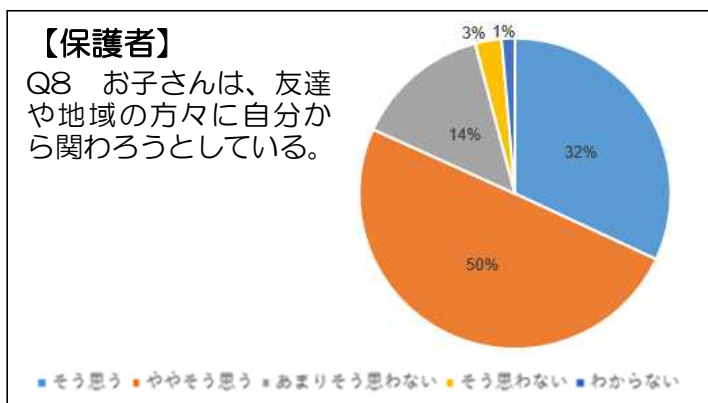
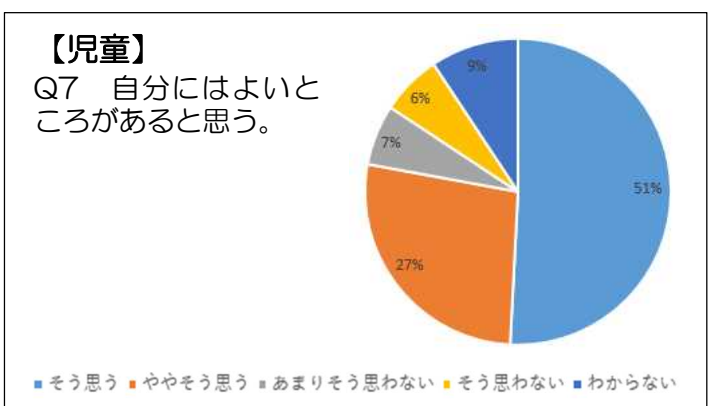
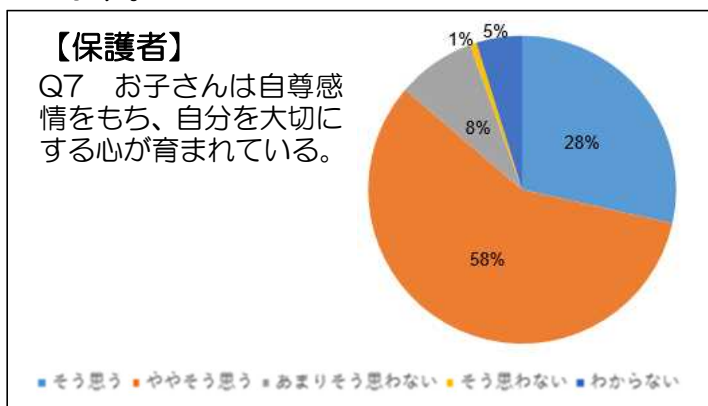
■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない



Q5・Q6 に関しては、この数年大きな変化はありません。ただ、Q5 に関しては、「そう思う」「ややそう思う」を合わせて昨年度71%から今年度76%と、少し評価が上がりました。コロナも5類に移行し、外に出て体を動かす機会も増えたためと考えられます。白根小では、中休みには竹馬やフラフープの貸し出しを行ったり、継続的に縄跳びに取り組んだり、年間を通して様々な運動に親しむ活動を取り入れています。また、食育を通して、作物の栽培や食文化、栄養に興味をもち、食生活を大切に考えることができるような指導も続けています。今後も、子どもたちの「健やかな体」の育成に努めていきます。

#### 分類4「自分づくり教育」

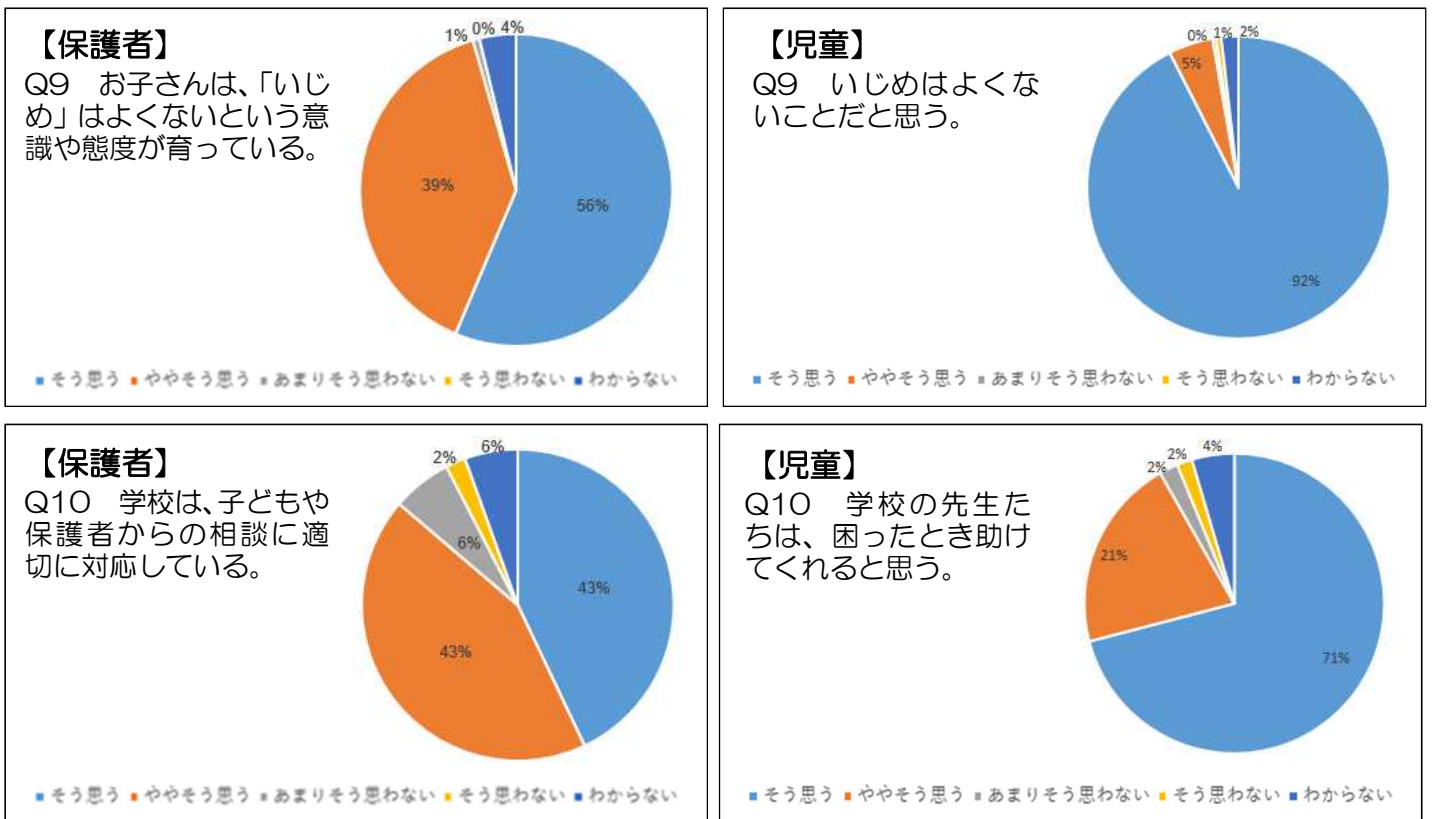
子どもの自尊感情を育て、自分らしさを発揮しながら仲間や地域とともに生きようとする子どもを目指しています。



Q7・Q8 に関しては、昨年度とほぼ同じ結果となりました。Q8 に関しては、「あまりそう思わない」「そう思わない」「わからない」を合わせると 18%となり、他の設問に比べると少し多いです。Q1 の「主体性」と同じように、「自分から関わる」ことも苦手としている子どもが多いと保護者の方も感じられているようです。ただ、子ども自身の評価としてはそれほど低い評価ではありませんでした。ここ数年、感染症対策であまり行えていなかった地域の方との活動も、また少しずつできるようになってきました。友達や地域の方とのつながりを大切にしていくことは、学校目標の大きな柱の一つでもあります。今後とも人とのつながりを大切にできる子の育成を目指していきます。

## 分類5「いじめへの対応」

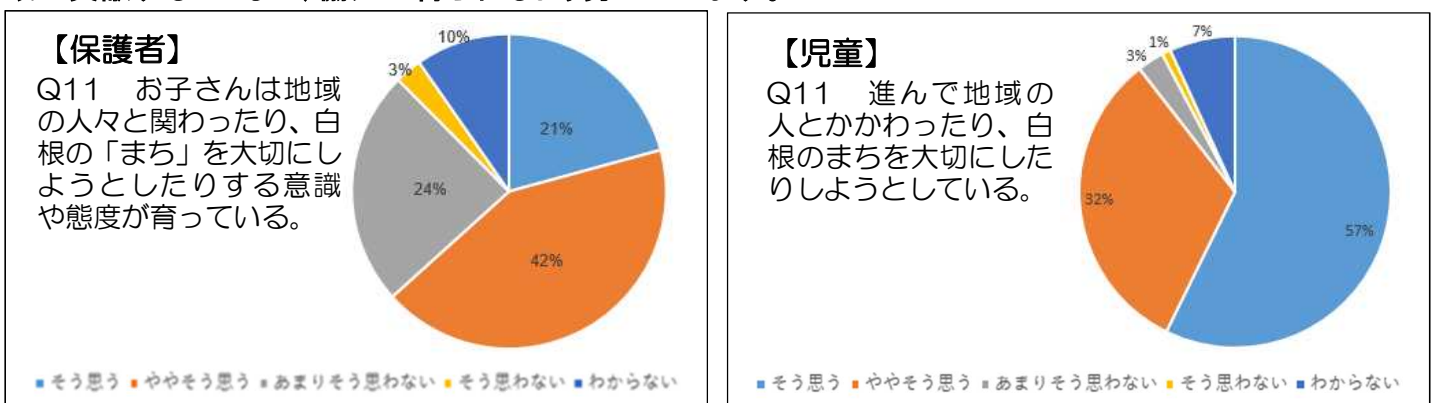
全職員が「学校のきまり」を共有して指導するとともに、コミュニケーションを大切に、いじめの未然防止・早期発見に努めるようにしています。



Q9、Q10に関しては、昨年度とほぼ同じ結果となりました。特にQ10では、「あまりそう思わない」「そう思わない」と思われている保護者の方が8%で、学校は、相談したことに対して適切に対応していないと思われている方が少なからずいることが分かりました。今後は、保護者の方々のご相談に対して、より親身になって対応するよう努めてまいります。また、担任だけでなく、「児童支援専任」「いじめ防止対策委員会」「学校カウンセラー」「スクールソーシャルワーカー」「セクシャルハラスメント相談窓口」など、関係職員や他機関とも連携しながら、組織的に対応するよう今後も努めていきます。

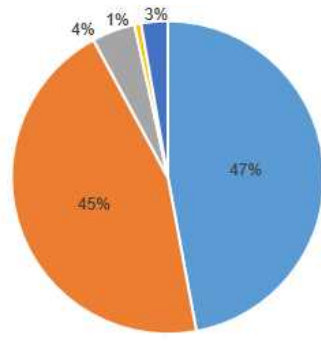
## 分類6「地域学校協働活動」

学校、家庭、地域が協働して児童の健全育成を推進し、感染症対策等を含めた情報発信に努め、地域に貢献するとともに、協力が得られるよう努めています。



### 【保護者】

Q12 学校は、各種たよりやホームページ、動画配信等により、家庭や地域への連絡や情報提供を適切に行っている。



Q11 は、今年度新たな設問です。コロナが5類に移行し、学校でも以前のように地域に出たり、地域の方と関わったりする活動ができるようになりました。子どもの自己評価も高い傾向です。子どもの自己評価は、どの項目も全体的に、低学年の方が「そう思う」という高い評価が多く、高学年になるにつれ、自己評価が低くなる傾向が見られます。一般的に年齢が上がるにつれ自己評価が低くなるのは、成長とともに周囲の状況が分かり、周り自分とを比較することで、より客観的に自分自身を見つめ直すという精神的な成長だと考えますが、この項目に関しては、高学年でも評価があまり下がらず、どの学年もあまり変わらない結果となりました。学年が上がるにつれ、地域でできる活動も増え、自分と地域のつながりを感じる機会が増えたからだと考えられます。ただ、保護者の方の評価は「そう思う」「ややそう思う」が63%と、Q1と同じように全12問と比べると低いです。子どもが地域とつながり、将来の地域の担い手として自分の地域を大切に思えるようにするには、学校・家庭・地域の協働がとても大切です。今後も、ご家庭の協力を得ながら、地域を大切にする子の育成に取り組んでいきたいです。Q12 に関しては、昨年度とほとんど同じ結果でした。昨年度いただいた「訂正が多い」「分かりにくい」というご意見を改善につなげるため、今年度は多数の目で確認、点検などをこれまで以上に行うことで、確実な情報をできるだけ分かりやすくお伝えできるように努めました。

## 2. アンケート結果を受けての考察

### <高い評価をいただいた項目について>

Q3「異学年での活動はお子さんの成長につながっている。」、Q9「いじめはよくないという意識や態度が育っている。」については、例年高い評価をいただいています。Q3 に関しては、先日行われた運動会でたてわり班での応援席の様子、ペア学年での団体競技などをご覧になられた保護者の方からも高い評価をいただいているため、それが今回の結果につながっていると思われます。ここ数年は、感染症対策のため、異学年が一緒になって行う活動を十分に取り入れることができませんでした。今年度はそれが回数を増やしてできるようになりました。全学年でのたてわり班とともに、ペア学年での交流も年間を通して行っています。日頃からのつながりが、運動会の応援席でのあたたかい様子に表れていたのだと思います。今後も、異学年での活動を通して、上学年を目標としたり、下学年に対して自分が役に立っていると実感したりできるような場を取り入れていきます。

Q2「ICT(タブレット等の情報機器)を活用したり友達と関わりあったりしながら学ぶことを、楽しんでいる。」は、昨年度に引き続き、子どもたちが楽しんで学習していることを高く評価していただきました。これは、子どもたちに行ったアンケートからも同じような傾向が見られました。子どもたちがいろいろな活動を通して楽しみながら学習できるように、授業改善に努めていきます。

## <課題とされる項目について>

学校側が課題と捉えている本校の子どもの「主体性」について伺った設問(Q1「自分から学習に取り組む」「自分から課題を見つける」、Q5「進んで体を動かす」、Q8「自分から関わる」)については、他の設問に比べて「あまりそう思わない」「そう思わない」「わからない」という回答が多かったです。今年度も、この課題をもとに様々な場で子どもの主体性を伸ばせるような活動を取り入れてきましたが、今後も、自ら考え、進んで行動できる子を育てられるよう、学習や生活の場で引き続き支援していきます。

Q7「お子さんは自尊感情をもち、自分を大切にしている心が育まれている。」については、保護者の方が感じられている以上に子どもの自己評価が低いです。特に高学年児童にその傾向が強く見られますが、昨年度よりは少し高い評価となりました。今後も、学習の場だけでなく、友達や異学年との交流、地域の方たちとのつながりなどを通して、子どもたちの自己肯定感を高められるよう支援していきます。

Q10「学校は、子どもや保護者からの相談に適切に対応している。」に対して、「あまりそう思わない」が 8.2%で、学校は、相談したことに対して適切に対応していないと思われる方が少なからずいることが分かりました。

その他、授業時数が近隣の学校より少なくなっていること、それによる学力の低下を心配するご意見をいただきました。今年度より全学年1時間ずつ週時間数を減らしていますが、これは、児童一人ひとりを大切にしたい教育活動を充実させるため、教職員が本来の業務である授業準備や児童の支援に専念し、元気に笑顔で児童の前に立ち続けられるようにするための削減です。時間数を減らした今年度も、横浜市の標準授業時数を大きく上回っています。また、ICT を効果的に活用したり、教科を超えて学習を深められるよう学習する時期や内容を見直したりすることで、授業時数を削減しても学習内容を押さえられるようにしています。

## <学校運営協議会の方からのご意見>

- ・登校見守りではここ数年の子どもの様子は大きく変わっているようには見えませんが、私の地域の子供会が活動を活発にしようと尽力してくれていることで、子どもの地域を見る目が変わってきているように思います。
- ・花壇の整備を地域と共に行うようになり参加している者の学校を見る目が変化しているように思います。子ども達との活動は地域の者にとって喜びの一つです。教職員の皆さんへの負担をできるだけ減らすことを考えながら、地域との協業が進められるように工夫していきたいと思えます。
- ・Q11 に関しては、Q8 と関連して消極的な面もある。地域からの声かけが不足しているかもしれないと感じた。